

みたか国際化円卓会議第 14 期 第 2 回会議録要旨

日 時	令和 7 年 10 月 23 日 (木) 18 : 30 ~ 20 : 00
会 場	三鷹市教育センター 3 階 第三中研修室
出席者	委員 13 名 (欠席委員 3 名)、事務局 4 名 傍聴 0 名

【当日配布資料】

- (資料 1) 外国籍市民向け防災ガイドブック(修正版)
- (資料 2) みたか国際化円卓会議 第 14 期委員名簿
- (資料 3) みたか国際化円卓会議第 14 期 第 1 回会議録要旨

【記号について】

○	委員の発言
●	事務局の発言
→	発言に対する返答

【議事内容】

1 新規委員によるショートスピーチ

2 外国籍市民向け防災ガイドブックについて

●修正版の主な変更点について事務局より説明。

○委員の意見が反映され、全体として見やすさが向上した。

○これまでの委員意見のうち、次の内容は反映が必要と考える。

外国語対応スタッフの待機場所／避難所で受けられる支援と文化面の留意点／

災害時の医療情報／三鷹市独自の“黄色いタスキ”の説明／M I S H O P の役割 (平時の相談窓口) ／宗教上の配慮／避難所の外国語表記が無いこと

○在宅避難を推奨する市の方針を明記し、そのための普段の備えが必要であるという冒頭ページの内容に繋げると良い。

○地域特性 (井の頭地区の火災リスク等) と避難所の種類を簡潔に説明すべき。

○このガイドブックは情報は充実しているが、これを読んで一人で避難所に行けるかどうか心配。また、普段は体育館である場所が避難所になることを知らない人は、どこに避難所ができるのかイメージが湧かないのでは。

○歩けない人や目が見えない人、高齢者など、体が不自由な人はどうすればよいか。

→●要支援者名簿を関係者で共有し、避難時に支援を受けられる仕組みや、福祉施設に避難所を設ける仕組みがある。ガイドブックに詳細を載せることは難しいが、重要な視点であると認識している。

○三鷹市の「黄色いタスキ」とはどのようなものか？

→○自分の家の無事を近所に向けて知らせる目印である。一番大事なのは普段からのご近所付き合いである。

○ペットも避難所 OK とあるが、大型のペットは対応しているのか。ケージは必要か。

→○基本はケージを持ってきてもらうようお願いしている。

○防災ガイドブックの完成版にふりがなは付くのか。

→●やさしい日本語版を作成する。他には、英語版、中国語版、韓国語版を作成する。

- 台湾はいつも上手く避難所を設営しているが、どのような仕組みなのか。
- 私も実際に避難したことがあるが、避難所設営や運営、避難のアナウンス等はボランティア主導で行われる。避難所もテント等でプライバシーが確保されている。
- 避難所に多く集まると狭くなるが、備えたものを大きなスーツケースに入れて持って行っても良いのか。何か決まりはあるのか。
- 国際基準は2m四方となっているが、実際はそれ程のスペースは取れないと思う。避難所ではプライバシー確保が非常に重要で、紙で間仕切りを設ける等の対応が出来るよう、今三鷹市も専門家の協力のもと取り組んでいるようである。
- 今回も多くの意見が挙がったが、全てを反映させられないことは委員も理解している。市の判断で進めてもらいたい。

3 第14期議題について

- 前回会議で提案のあった「MISHOPフェスティバルの見直し」については、すでにMISHOPで見直しの検討を始めていることを確認したため、議題としては見送ることとした。
事務局からの「地域参加の促進方法」の提案に対しては前向きなご意見を多くいただき、今期の議題の1つとして進めていけたらと考えている。その他、前期と同様、医療面など生活の困りごとについて、というご意見もいただいている。議題を複数にするかについても、本日決めていきたい。
- 会議の開催回数が多いくないため、テーマは1つか2つが良いと思う。
- 先程ショートスピーチでご紹介のあった、大沢地域の「わさび田」のボランティアや、前回会議で挙がった盆踊りなど、地域の活動に外国籍市民がより参加しやすくなる方法を協議するのは良いと思う。(複数意見)
- もう1つ議題を挙げるとしたら、医療が一番心配な点である。
- 外国では、医療機関を受診する際の慣習や処方の方考え方等が日本と異なり、制度理解の難しさから生じる困りごとは多い。(複数意見)
- 体調が悪いとき等、辛いときでも利用できる相談窓口、自国の言葉で説明してもらえる相談窓口があると安心すると思う。
- 医療は非常に重要なテーマである。一方、前期の報告に書かれていた三鷹市の人権条例への意見に対して具体的な行動は書かれておらず、どのように対応したのか気になる。災害についても、マニュアル以外の実際の行動、例えば地域の防災訓練に参加してもらおう仕組み作りが必要である。その役割を担うのがMISHOPだからこそ、我々がこの会議でMISHOPにコメントすべきと申し上げた。地域活動への参加や外国籍市民に対するケアについても、その中核を担うのがMISHOPである。外国の習慣も理解したうえで、外国籍市民の困りごとに対してワンストップで対応できる、皆が知っていて、困ったときにすぐ聞ける場所が必要なのだと思う。
- 例えば今回の防災ガイドブックもMISHOPの日本語ボランティアに協力いただいております、また実際の災害時に外国語ボランティアのコーディネートをするのもMISHOPの役割である。防災の取組については、このガイドブックを作った終わりではなく、MISHOPとどのように連携して対応するか、我々もご意見を聞きながら取り組んでいく必要があると考えている。この会議では、MISHOPそのものへの提言というより、MISHOPが何が出来るかという検討は出来るのではないかと考えている。MISHOPフェスティバルに関しては、現在MISHOP自身でも課題と捉えており、実行委員会方式でもあることから、まず自分達で考えるべきと判断したが、それ以外については、皆さんからのご意見を受けて、MIS

HOPにどう対応するかを考えてもらうことは出てくると思う。この会議では、每期テーマを設けて提言をまとめることになっているが、ご意見をいただく中で、MISHOPとして何が出来るか、またパートナーシップを結んでいる（公財）アジア・アフリカ文化財団では何が出来るか、ということも含めて考えていきたい。

○MISHOPを知ったきっかけを尋ねると「友人の紹介」という方がほとんどだが、MISHOPを知っている外国籍市民は全体の半分以下だと思う。例えば市から在住外国籍市民の方にメールを送り、受取りを希望する情報を尋ねて情報発信するといった取組は出来るのでは。

○地域のことが最も大切なテーマであるというのが共通意見かと思う。わさび田のような地域活動に外国籍市民が参加出来る方法を考えること、市民になったこの地域で自分に出来ることがあるということが、外国籍市民にとっては嬉しいと思う。三鷹市の活動への参加方法について考えるテーマだけでも十分ではないだろうか。

○地域参加のテーマを基本とし、引き続き実際の困りごとなど意見交換する中で、さらに膨らませて話すべきテーマが出てきたら、その時点で議論を軌道修正しても良いのではないか。

4 次回日程

●次回は1～2月頃に開催予定である。中村委員、ZHANG委員にショートスピーチを依頼する。

以上